



学校教育目標

自ら求めて学ぶ心豊かな生徒の育成

文責 長谷川 忍

星に願いを

先週の7月7日（日）は七夕でした。七夕は、昔、中国から日本に伝わった星のお祭りです。この日には、織姫と彦星という男女の星が天の川をはさんで向かい合っていて、この2つの星が1年に1度、7月7日にだけ会えるという言い伝えからお祭りが始まったそうです。

もう少し詳しく話すと、昔の中国に、はた織りが上手な神様の娘の織姫と、働き者の牛飼いである彦星という2人がいたそうです。2人は神様の引き合わせで結婚し、仲良く暮らしていました。けれども楽しさのあまり、2人は仕事をせずに遊んでばかりの日々を送ってしまっていました。それを見て、怒った神様は天の川の両側に引き離してしまいました。でも、悲しさのあまり元気をなくした2人を可愛そうに思って、7月7日を年に1度だけ会える日として許した、というお話です。



また、願い事を書いて笹竹に飾る風習も広く親しまれています。1年生のみなさんは、右の写真のように短冊に書いた願い事（夢）を笹竹に飾りつけたと思います。



【1年教室前廊下の笹竹】

ところでみなさんは、「流れ星に3回願いをかければ願いが叶う」というお話を聞いたことがありますか。これにはこんな言い伝えがあります。「空に神様がいて、神は時々下界の様子を確認するために、こちら側をそっと覗く時に、漏れる光が流れ星。だから、その時に願いごとを口にすれば、その声はきっと神様に届き、願い事が叶う」というのです。

この話は、現実社会において夢を叶えるためには「願いを強く持ち続けることが大切」ということを表しています。流れ星を見つけたその一瞬に、願う言葉が言えるくらい強く心に思い続けることが大切なのです。思い続けることが、日々努力していく姿勢になり夢の実現につながります。今回、短冊に夢を書いた人はもう一度思い出して、強く心に思い続けてほしいと思います。書いてない人も、できるだけ早く夢を見つけて思い続けましょう。日頃から自分の夢を強く意識することが、夢の実現の近道になるのです。

星つながりの最新情報

探査機「はやぶさ2」が持ち帰った砂状の試料を分析した結果、小惑星リュウグウはかつて水に満ちた天体だったことが分かったと、海洋研究開発機構などの研究チームが10日、発表した。太陽系の最も外側で誕生した当初は、氷や液体の形で水が豊富に存在し、岩石などが混ざった泥のような状態だったとみられる。海洋機構の高野研究員は「豊かな水を背景に多様な化学反応が起きたのだろう。地球生命の原材料が宇宙から飛来したとする仮説の補強になりそうだ」と話した。(2024.7.10 産経新聞)

↑人間は「星のかけら(元素)」からできている説